

これまでとこれからのすべてのお客様と、会澤工務店とを結ぶミニしんぶん

木にこだわる
家づくり

あい情報

第6号

インフォメーション

家つ報

季刊：2005年夏

発行
株式会社会澤工務店
〒343-0023
埼玉県越谷市東越谷4-8-11
Tel.048-962-4151
fax.048-962-4150
URL: www.aizawakomuten.jp

「オーディオ・ホームシアター体験会」を開催



8月「木心地の好い家」サロンにて

さる8月25日から同28日にかけて、「木心地の好い家」にて「オーディオ・ホームシアター体験会」を開催しました。

今回の企画をコーディネートしてくださった及川孝樹さんは、ステレオサウンド社の元記者で、吉川市出身。現在は同社の「季刊ホームシアター」を中心にフリーライターとして活躍しています。

及川さんが取材訪問したホームシアターの実例や、5.1チャンネルサラウンドの迫力ある音響、100インチの大画面に、リビングの新しい提案が感じられる企画でした。

第6号の見どころ

- 2 燃料電池・コージェネレーション。
- 3 「わくわくフェア」に行ってきました。
- 4 5 新仕様「木心地アヴェニュー」
- 6 固定資産税・都市計画税の話。
- 7 三郷営業所だより「退出時に忘れがちなこと」
- 8 「木心地の好い家サロン」開催予定。
「会澤の感謝ふれあい祭り」ご案内。

会澤工務店ホームページ
www.aizawakomuten.jp

設計部から(4) 家庭用燃料電池コージェネレーションシステム

「コージェネレーション」とは、1つのエネルギーから電気や熱などの2つ以上のエネルギーを取り出すことです。「太陽光発電」同様、近年注目のエコシステムです。

1つのエネルギーとは、都市ガスです。まず、燃料電池ユニットで都市ガス中にある水素と空気中の酸素を化学反応させて発電させます。ここで電気をつくり出します。その後、貯湯ユニットで、発電する時に発生する熱をお湯にして貯めます。(お湯が足りなくなった時のためにバックアップ熱源機も入っています。)

2つのエネルギーとは、電気とお湯です。発電した電気は家庭

内の電気機器で使用します。(1KWを超える分や発電停止中は、自動的に電力会社の電気を使用します。)お湯は、風呂・シャワーやキッチンなどの給湯に使用します。(暖房・風呂の追い炊きは、貯湯ユニットのバックアップ熱源機でつくる温水を利用します。)この2つを合わせて家庭用燃料電池コージェネレーションシステムです。

今まで私たちが使っている電気、実は利用しているのは、もとのエネルギーの37%しか使っていません。電気を「つくる」場所と「つかう」場所が離れていると、63%のエネルギーが、排熱ロス・送電ロスによって、海や大気中に

捨てられてしまっているのです。

このシステムは、家庭までは、都市ガス(ロスなく100%家庭まで届きます。)そこから発電すれば、電気を「つくる」場所と「つかう」場所が一緒で、発電時にできる熱も、お湯に変えられ、ロスなく、ムダなく利用できるのです。(ここでのロス29%)今まで捨てていた熱を使って、より快適で、地球にやさしいシステムなのです。

まさにガスだね!



設計部 大山でした

工事部から(5) 「上棟」の作業

前回の「基礎工事」の次の工程のお話を。

コンクリートの基礎の上に、軸組最下部水平材の「土台」を基礎から出たアンカーボルトによって緊結します(まぎらわしいですが、建築用語では、「土台」とはこの木材のことを言います)。基礎と緊結するさい、その間に厚さ25mmの土台パッキンを挟み込んで隙間を空け、通気を取り、土台と床下の防湿を保ちます。(ここまでを「土台敷き」という)

次はいよいよ「上棟」です。

上棟日前日までに、工場ではプレカットされた構造材(骨組みになる部材のこと。柱、梁、桁、筋交いなど。土台も含まれる)を現場に搬入。

プレカットとは、コンピュータに

よる部材機械加工システムのこと。

大工が手仕事で墨付け加工すると数週間かかる作業を、プレカットですと1日で1棟分は加工でき、現在ではこちらが主流となっています。しかし和室など真壁の部分など、今でも大工の手加工に頼らざるを得ない部分は残されています。

さて、上棟はクレーンを使い、大工が鷹職とともにいきます。軸組み工法では、通し柱を土台から最上階までまっすぐ立ち上げ、側面から梁を入れ込んでいく形でフレームを構成します。

まず通し柱、1階の管柱を立て、2階の床組み高さの胴差(どうさし)、床梁を支えます。次に2階の管柱を立て、軒桁、小屋梁

を支えます(小屋梁では自然の反りを活かした太鼓梁を使用することもあります)。最後に屋根になる骨組みの小屋梁を組んで、屋根の棟部分の部材である「棟木」を固定します。(この瞬間が狭義の「上棟」)

筋交いを入れるのは翌日以降の作業となりますので、その間、建物が歪まないように仮の筋交いを入れ、建物の垂直を確認し、上棟は終了。お清めをして「棟札」を上げ、「上棟式」を行います。

工事部 高野(こうの) でした